

14年目の女性学

人生 100 年時代を有意義に生き抜くために、
自分の世界をより広く、豊かにしましょう。

そのためには、外からの新鮮な刺激を受け、自分の感情と思いを開け放ち、
頭脳を鍛錬することが大切です。

そして〈生涯を通して積極的に学ぶ〉ことが重要です。

案内人は鎌田明子さん（映画・映像の回）と米澤洋子さん（ゼミナールの回）です。

年齢・性別を問いません。参加費無料・事前予約不要ですので、
お気軽にご参加ください。

ご興味のある回だけの参加もできます。

開催内容 ～全 6 回～（日程の曜日にご注意ください。）

1	5月22日（木） 13：30～ 案内人 鎌田 明子さん	13：30～13時45分；テーマ解説、45分～教材(映画など)&トーク会 ドキュメンタリー「フジコ・ヘミングーショパンの面影を探してースペイン・マジョルカ島を旅して」：（2022年、90分） 1931年生まれのフジコ・ヘミングは波乱の人生を2024年4月92歳で終えた。ピアニストとして60歳代で一躍「時の人」となり、世界的に認められて活躍。高齢になってもそのピアノ演奏は独特の魅力をもち、聴衆のこころを揺り動かした。とりわけショパンへの情熱は熱く、彼の面影を探して、念願のスペインのマジョルカ島を旅するチャンスを得た。ショパンゆかりの地でおこなった演奏は、90歳近くになってなお輝き続ける彼女の命を映しているようだ。
2	6月26日（木） 13：30～ 案内人 鎌田 明子さん	13：30～13時45分；テーマ解説、45分～教材(映画など)&トーク会 映画「モーターサイクル・ダイアリーズ」：（アメリカ、南米諸国、独、仏、2004年、126分） 伝説の革命家「チェ・ゲバラ」がキューバや南米の革命運動に関わる以前、アルゼンチン医学生だったころの体験記をもとに制作された映画。1952年、医学生エルンストは先輩アルベルトと二人でおんぼろバイクにまたがり、南米縦断一万キロという無謀な旅に出る。様々な不条理と苦境のなかに生きている人びとに出会って感銘を受け、南米の自然の雄大さと厳しさに接しながら、彼ら自身が成長する姿が描かれる。情熱的で正義感あふれた青春の軌跡は鮮やかであるが、それが「革命家チェ・ゲバラ」の原点となることが予感される。
3	7月12日（土） 13：30～ 15：30 案内人 米澤 洋子さん	福澤諭吉の女性観 ―その光と影― 福澤諭吉の有名なことばに「天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らずと云へり」があります。『学問のすゝめ』の冒頭の一文であることは、誰しも知っているでしょう。しかし「人」とは誰のことか。福澤諭吉の意図に反して、当時の人々は成人男性を想像したはずです。男女平等が未だ実現していなかった明治に、福澤は新しい女性像を打ち出しました。しかし、そこには影の部分もありました。私と一緒に彼の女性観とその思想を学びませんか。

4	10月16日(木) 13:30～ 案内人 鎌田 明子さん	13:30～13時45分; テーマ解説、45分～教材(映画など)&トーク会 ドキュメンタリー映画「ようこそ、アムステルダム国立美術館へ」;(オランダ、120分、2008年) 「アムステルダム国立美術館」は「ルーブル美術館」や「大英博物館」に匹敵し、レンブラントやフェルメールなどの超傑作をふくむ100万点をこす作品を所蔵する。2004年に開館以来初の大改築が始まり、2008年に「ようこそ!」と再オープンする予定だった。ところが予期せぬ難問題が次々と噴出し、計画は変更と延期を繰り返し、はては完成予定年に工事中断……。期せずしてこの騒動をドキュメントすることになった本映画は、美術館の展示室では決して見られない舞台裏と、悲喜こもごもの人間模様を写し出して興味深い。現在は?もちろんそのあと何年もかかって、新たな生命を吹きこまれて優雅な姿を見せている。皆様、ようこそ!お隣のゴッホ美術館やレンブラントハウス美術館にも。
5	11月27日(木) 13:30～ 15:30 案内人 鎌田 明子さん	13:30～13時45分; テーマ解説、45分～教材(映画など)&トーク会 映画「愛を読む人」;(オランダ、120分、2008年) 1995年のドイツのベストセラー『朗読者』(ペルンハルト・シュリンク、<i>The Reader</i>)の映画化。舞台は1958年のドイツ。15歳の青年マイケルは偶然21歳年長のハンナと出会い、情熱の逢瀬を重ねることになった。いつも彼に「本を読んで」とせがんだハンナは、突如姿を消した。 8年後の1966年、ハイデルベルク大学の法科で学ぶマイケルは、裁判傍聴の時にハンナと再会し、彼女の衝撃の過去を知る。非識字者だったハンナ。生き伸びるためにあの仕事をしたのか。彼女が犯した罪へのマイケルの怒り、助けられなかった悔恨の念、消えぬ愛の記憶…… 人間はなぜ忌まわしい過去の歴史から目を背けてはならず、そこから何を考えるのか。
6	3月7日(土) 13:30～ 15:30 案内人 米澤 洋子さん	小林一茶の生涯と「猫の恋」—新しい季語の誕生— 小林一茶(1763～1827)は松尾芭蕉に遅れること100年に登場した江戸後期の俳人です。「雀の子そこのけそこのけ御馬が通る」は小学校の教科書に載るほど今でも親しまれている一句ですね。一茶の句には小さな生き物が多く登場するので、やさしい俳人というイメージがありますが、その生涯は波乱に満ちたものでした。今回は、その生涯をたどりながら、彼が小さな生き物に託した心情を考えてみましょう。キーワードは春の季語「猫の恋」です。楽しくも切ない季語です。

TEL/FAX 0740-22-5775
高島市働く女性の家“ゆめぱれっと高島”
滋賀県高島市今津町今津 1640 番地

開館時間:火～土曜日 9:00～22:00 日・月曜日・祝日は休館日

※悪天候、その他やむを得ない理由によって、内容を変更もしくは開催を中止することがあります。

都度HPでご確認いただくか、高島市働く女性の家までお問い合わせください

※参加費は無料です。



高島市働く女性の家 HP